

12. 5 ものがたるアンケート抄—私のイチオシものがたり？—

Facebook & 旧Twitter (現X) 「とある民俗学講師 (の補足メモ)」

- ・物語 (発端、展開、結末など状態変化を示す言説のまとまり) とその類似物 (ウソとフィクションの違い)
- ・物語いろいろ: 多様な媒体、語り手の位置、お約束、世界観とキャラクター、リアリティとファンタジー…
- ・物語の成長: 模倣、引用、パロディ…
- ・物語の効用: 現実から抜け出すこと≒娯楽/現実に戻る≒教育
- ・物語が産み出す社会の協調と分断

伝説・昔話・古典 「浦島太郎」5「因幡の白兔」「一寸法師」「笠地蔵」「かちかち山」「さるかに合戦」「舌切り雀」「竹取物語」2「鶴の恩返し」3「三本枝のかみそり狐」「月のうさぎ」「耳なし芳一」「桃太郎」6、「八嶋」、紫式部「源氏物語」、「平家物語」、「三国志演義」2、「人間万事塞翁が馬」、「アリとキリギリス」

絵本・児童文学 伊藤秀男「かわのなかでは」、かこさとし「カラスのパン屋さん」、亀井一成「あしかのまさる」、斎藤隆介&滝平二郎「ペロ出しチョンマ」「モチモチの木」、せなけいこ「クリスマスったらクリスマス」、瀧村有子&鈴木永子「ちょっとだけ」、どいかや「チリとチリリ」、新美南吉「ごんぎつね」2、林明子「こんとあき」、もとしたいづみ&樋上公実子「チョコレートひめ」、エルジュ「タンタンの冒険」、エリック・カール「はらぺこあおむし」、フランセスカ・サイモン&ケレン・ラドロー「アベコベさん」、ヘレン・バンナーマン「ちびくろサンボ」

小説 青柳碧人「浜村渚の計算ノート」、芥川龍之介「地獄変」「桃太郎」、浅田次郎「鉄道員」、浅葉なつ「神様の御用人」、上橋菜穂子「獣の奏者」、宇山佳佑「桜のような僕の恋人」、小川洋子「薬指の標本」、小野不由美「十二国記」、喜多川泰「運転者」、河野裕「さよならの言い方なんて知らない。」、小林泰三「酔歩する男」、司馬遼太郎「梟の城」、住野よる「君の臓腑を食べたい」「また、同じ夢を見ていた」、武田綾乃「響け！ユーフォニアム」、長野まゆみ「鳩の栖」、奈須きのこ「空の境界」、夏目漱石「こころ」2、馬場翁「蜘蛛ですが、なにか?」2、東野圭吾「パラドックス13」、百田尚樹「永遠の0」、宮島未奈「成瀬は天下を取りにいく」、村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」「ノルウェイの森」、森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」、タ木春央「方舟」、T・S・エリオット「J・アルフレッド・プルーフロックの恋歌」、E・L・カニグズバーグ「クロードディアの秘密」、アガサ・クリスティ「オリエント急行殺人事件」、E・M・ヘミングウェイ「老人と海」、L・M・モンゴメリ「赤毛のアン」、J・K・ローリング「ハリー・ポッター」3

演劇・ドラマ・映画 NHK「カムカムエヴリバディ」、TBS「ザ・ロイヤルファミリー」、NETFLIX「アドレセンス」、フジテレビ「アンメット ある脳外科医の日記」「大豆田とわ子と三人の元夫」「ガリレオ」「コンフィデンスマンJP」「HERO」、大九明子「今日の空が一番好きとまだ言えない僕は」、ガウリ・シンデー「マダム・イン・ニューヨーク」。ジョン・M・チュウ「グランド・イリュージョン」、ブライアン・デ・パルマ「アンタタッチャブル」

マンガ・アニメ 赤坂アカ「かぐや様は告らせたい」2、葦原大介「ワールドトリガー」3、亜月ねね「みいちゃんと山田さん」、安倍吉俊「灰羽連盟」、荒川弘「鋼の錬金術師」4、荒木飛呂彦「ジョジョの奇妙な冒険」2、池野恋「ときめきトゥナイト」、諫山創「進撃の巨人」5、稲垣理一郎&Boichi「Dr. STONE」、羽海野チカ「三月のライオン」、浦沢直樹「マスターキートン」、虚淵玄「PSYCHO-PASS」、遠藤達哉「SPY×FAMILY」、大今良時「聲の形」、尾田栄一郎「ONE PEACE」、金城宗幸「ブルーロック」、九井諒子「ダンジョン飯」、久保帯人「BLEACH」、こうの史代「この世界の片隅に」、桜井画門「亜人」2、地主「スーパーの裏でヤニ吸うふたり」、白井カイウ「約束のネバーランド」2、新海誠「君の名は。」3、富樫義博「HUNTER×HUNTER」2、戸塚慶文「アンデッドアンラック」、野田サトル「ゴールデンカムイ」、原泰久「キングダム」3、はらだ「ワンルームエンジェル」、日之下あかめ「河畔の街のセリヌ」、福田晋一「その着せ替え人形は恋をする」、藤子不二雄「ドラえもん」4、藤本タツキ「チェンソーマン」、古舘春一「ハイキュー!!」2、堀越耕平「僕のヒーローアカデミア」、松井優征「暗殺教室」2、雷句誠「金色のガッシュ!!」、落第忍者乱太郎「忍たま乱太郎」、ONE「ワンパンマン」、サンライズ「機動戦士ガンダム」、ジブリ「かぐや姫の物語」「コクリコ坂から」「千と千尋の神隠し」「となりのトトロ」2「火垂るの墓」「耳をすませば」、任天堂「ポケットモンスター」3、レベルファイブ「妖怪ウォッチ」、ディズニー「アバター」「鏡の国のアリス」「白雪姫」「シンデレラ」「ズートピア」4「塔の上のラプンツェル」「美女と野獣」2「レミーの美味しいレストラン」、**ゲーム** エニックス「ドラゴンクエスト」3、バンダイナムコ「アイカツ!!」「アイドルマスター」「学園アイドルマスター」、任天堂「とびだせどうぶつの森」

【古典】「人間万事塞翁が馬」ということわざの背景にある物語が好きだ。これは、塞翁という老人について、「飼っていた馬が逃げる」→「逃げた馬が新しい馬を引き連れて帰ってくる」→「その馬に乗った息子が落馬し怪我をする」→「怪我のおかげで戦争に行かなくて良くなる」と言ったように幸福と不幸を交互に経験したというストーリーである。この幸福、不幸の内容がまた絶妙で、本当に幸不幸の予測は出来ないのだなと納得させてくれる感じがとても好きであり、悪いことが怒った後にこのことわざを思い出して悪いことばかり続くとは限らないと考えるようにしている。

【絵本】私のイチオシは絵本「ちょっとだけ」。一人っ子だった主人公のなっちゃんに妹ができて、今までずっとなっちゃんに付きっきりだったお母さんが妹の面倒を見ることに追われ、なっちゃんに構ってあげる時間がちょっとだけになってしまったので、なっちゃんは色んなことを自分で頑張りと、ちょっとだけ成功するのですが、やっぱりもうちょっとだけお母さんに甘えたくなり、という話です。私も2歳の時に妹ができて、なっちゃんと同じような寂しさを経験したので共感できる部分が多く、妹のことは大好きですが、今でも読み返すと色んな気持ちが蘇り泣いてしまいます。しかし、この本があったからこそ、当時の私は、前向きに、ちょっとだけ親離れをすることができました。

【小説】高2の時に読んだ小説『響け！ユーフォニアム』の魅力は、「特別になりたい」という若者特有の渴望と、努力が必ずしも報われるとは限らない残酷な現実の対比にある。特に主人公が最後のソロ・オーディションで敗れる結末は、部活に打ち込みながらも結果が伴わなかった私自身の経験と重なり、痛いほど胸に迫るものがあった。「努力は裏切るかもしれない」という恐怖を抱えながら、それでも足掻き続ける人間の姿を描いた、私の人生に深く刺さる物語である。

【小説】タ木春央『方舟』の最大のおすすめポイントは、閉鎖空間ミステリーの枠組みを用いながら、読者の読み方そのものを巧みに誘導する叙述トリックにある。地下建築に閉じ込められた登場人物たちが、生き残るために「誰を犠牲にするか」という極端な選択を迫られる展開は、倫理的葛藤と論理的推理を同時に要求する。物語は一見フェアに語られているようでいて、読者は無意識の前提や思い込みを利用され、終盤でその足場を崩される。真相が明かされた瞬間、それまでの描写が一斉に別の意味を帯びて立ち上がる構成は鮮烈である。単なる犯人当てではなく、読者の価値判断や読解姿勢までを問いつくす点に、本作の強い独自性がある。高校生の時にテスト期間に魅力にはまり何周も読んでいたら、テストの結果が壊滅的だったことが懐かしい。皆さんにもぜひ一読願いたい。

【ドラマ】今でも最も心に焼き付いている「イチオシ」は、福山雅治さん主演のドラマ『ガリレオ』です。一見すると、天才物理学者が鮮やかに謎を解くミステリーですが、その本質は「論理」と「感情」のぶつかり合いにあります。湯川学が放つ「実に面白い」という言葉は、未知の現象に対する純粋な探究心の象徴です。彼は非論理的な人間の感情を排除しようとしながらも、事件の裏に隠された動機や悲しみには真摯に向き合います。その姿は、大人の階段を上り始めた今の私に、客観的な視点と人間らしさの両立という大切な教訓を与えてくれます。不可解な現象に物理学で挑む爽快感と、解き明かされた真実が残す切ない余韻。この二面性こそが、放送から時を経ても色褪せない、この物語の最大の魅力だともいえます。私はこのドラマの影響で物理学にハマり、物理工学科を目指すきっかけとなりました。

【マンガ】はらだ先生の漫画「ワンルームエンジェル」は、人生を諦めた男が自称天使の少年と出会い、同居することになる話なのですが、何度読んでも泣いてしまいます。読み返すと納得のいく描写があったり、サブの登場人物にも感情移入するようになってきます。BL作家が書いた作品ということであまり広く知られていませんが、BLというカテゴリには収まらないと思うので色々な人に読んでほしいです。

【！】ノンフィクションではありますが、私は先日公開された映画である「栄光のバックホーム」の元となっているエピソードがイチオシです。私は野球を見るのが趣味で、5年ほど前から夢中になって見ております。2023年の元阪神・横田慎太郎さんの訃報は非常にショッキングでした。その年の阪神は、怒涛の勢いで勝利し、最終的にリーグ優勝、日本一を達成。自分は中日ファンですが非常に感動しました。